

◆ 推薦のことば ◆

つい数十年前までの“医学研究イコール基礎実験”だった時代を思うと、最近、職種を問わず、臨床研究を志す若い臨床家が増えていることは喜ばしい限りである。同時に、増え続ける初心者用テキストの充実ぶりも目を見張るものがある。疫学、医療データサイエンスを中心テーマとして苦闘してきた臨床家の一人として、20年前にこの世界に入った当時は、今とは異なり理解しやすい教科書を見つけるのは至難だった。そのような時代から現在まで、田中司朗先生、田中佐智子先生ご夫妻に最新の生物統計学のご指導を受けながら仕事ができしたのは、私の研究者人生における最大の幸運の一つであった。臨床家の思考パターンを知り尽くし、そしてご自身も優れた臨床疫学論文を多数執筆されている田中ご夫妻は、つねに臨床家の意図を汲んで、臨床家に訴える適切な解析手法を提案して下さる。

数年前に、ご夫妻の前著である「短期集中！オオサンショウウオ先生の医療統計セミナー論文読解レベルアップ30」の表紙を拝見したときに、「なぜオオサンショウウオ？」と思ったのを覚えている。ご夫妻は単に、わが国では生物統計家は少なくて珍しいから、という意味でおっしゃっていたが、実は「統計ができる臨床家」もオオサンショウウオのように珍しく、さらに「臨床家の思考パターンを理解する統計家」はもっと珍しく貴重である。その意味で、田中先生ご夫妻は、たしかに本物の「オオサンショウウオ」だと妙に納得したのを思い出す。

私は仕事柄、この分野の教科書はたいいてい目を通すが、最近はどれも統計が不得手な臨床家のために、努めてわかりやすく書かれるようになってきた。ただその結果、どれも似たような感じになってしまった傾向は否めない。そのなかで、臨床家の思考パターンを知り尽くしたご夫妻の前述前著は、適切な実論文に立脚していて、読むうちに自然にセンスが身につくしくみになっているのは流石と思わせる。われわれ臨床家が、優秀な指導医について示唆に富む症例を経験すると、少ない症例でも大きく成長するのとよく似ている。

今回は、田中司朗先生と、田中佐智子先生からバトンタッチした未海美穂先生、清水さやか先生という、こちらも「統計ができる臨床医」の方のオオサンショウウオとともに、計3名(3匹?)で「糖尿病論文で学ぶ」という但し書き付きのタイトルで第二弾を上梓された。これは糖尿病を含む生活習慣病関連の専門家としては見逃せない。そして確かに前著同様、期待通りの出来である。この分野の指導医である私としては、本書でこの分野の魅力に気づいたさらに多くの若い臨床家が、臨床研究の世界に飛び込んで、この分野を盛り上げてくれることを期待せずにはいられない。

2019年6月

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 血液・内分泌・代謝内科分野
曾根博仁